

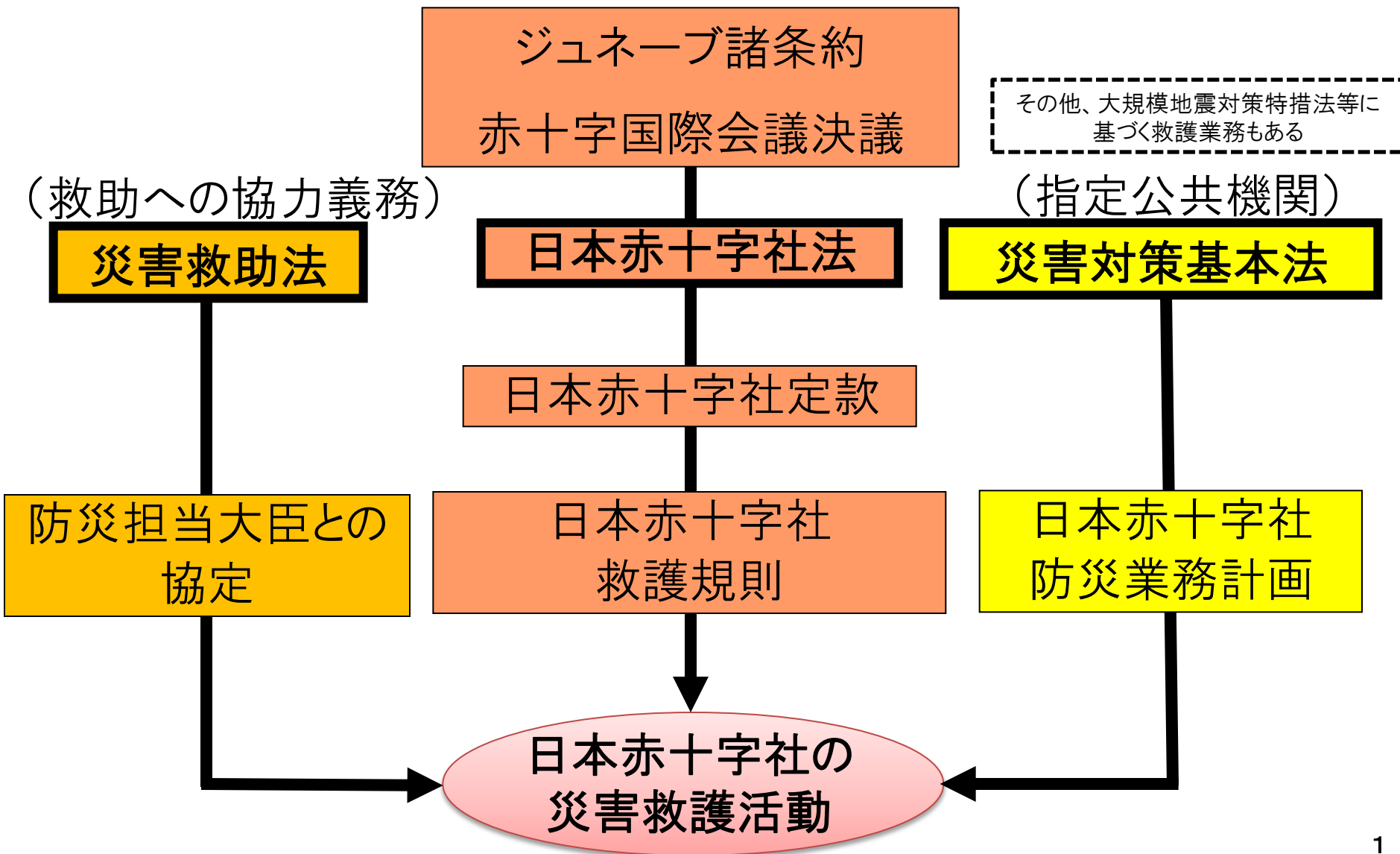
日本赤十字社の災害時の 救護業務について

事業局 救護・福祉部



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

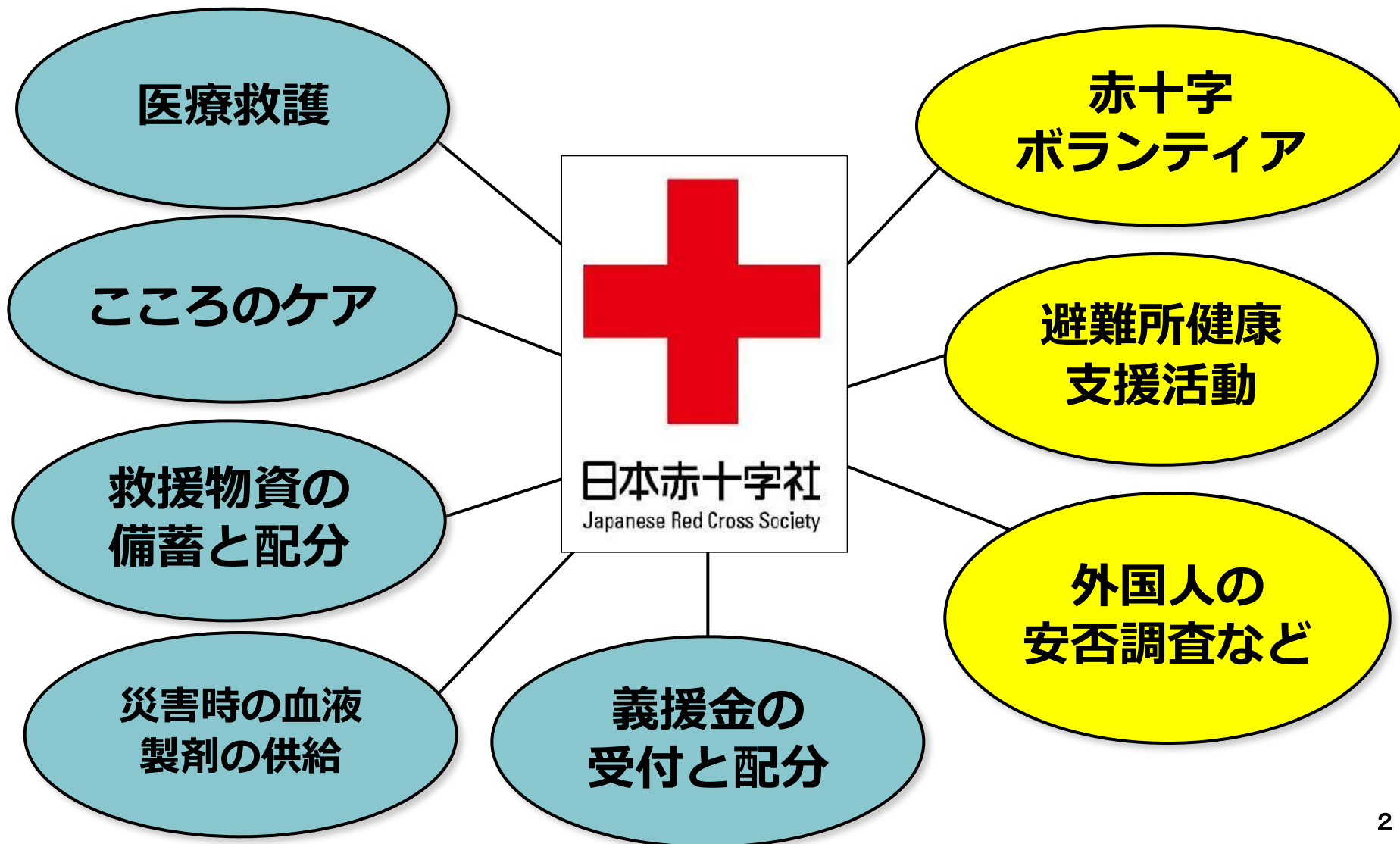
日本赤十字社の災害救護業務の法的根拠



日本赤十字社の災害救護対応

(日本赤十字社救護規則に定める事項)

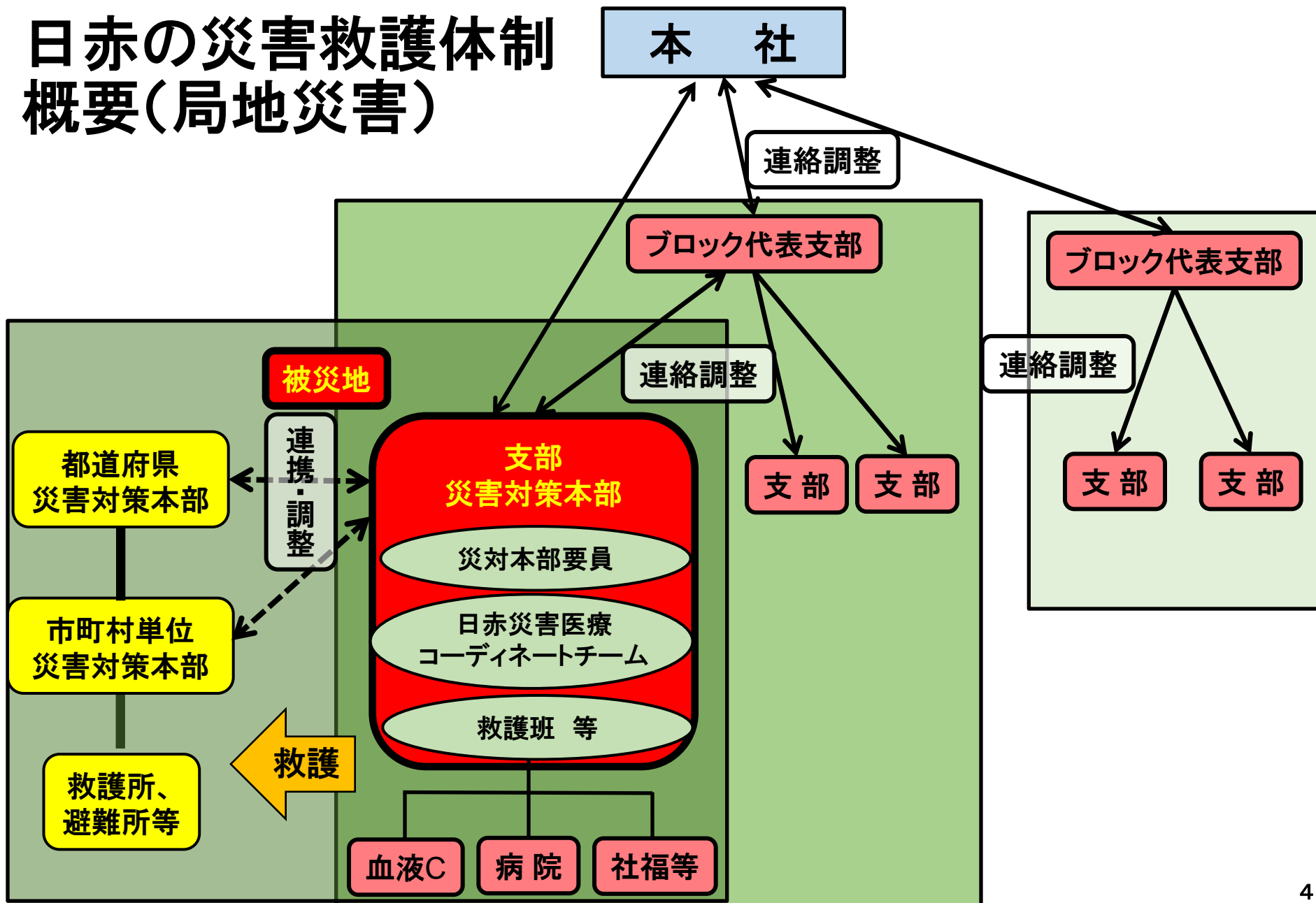
(様々なニーズへの対応)



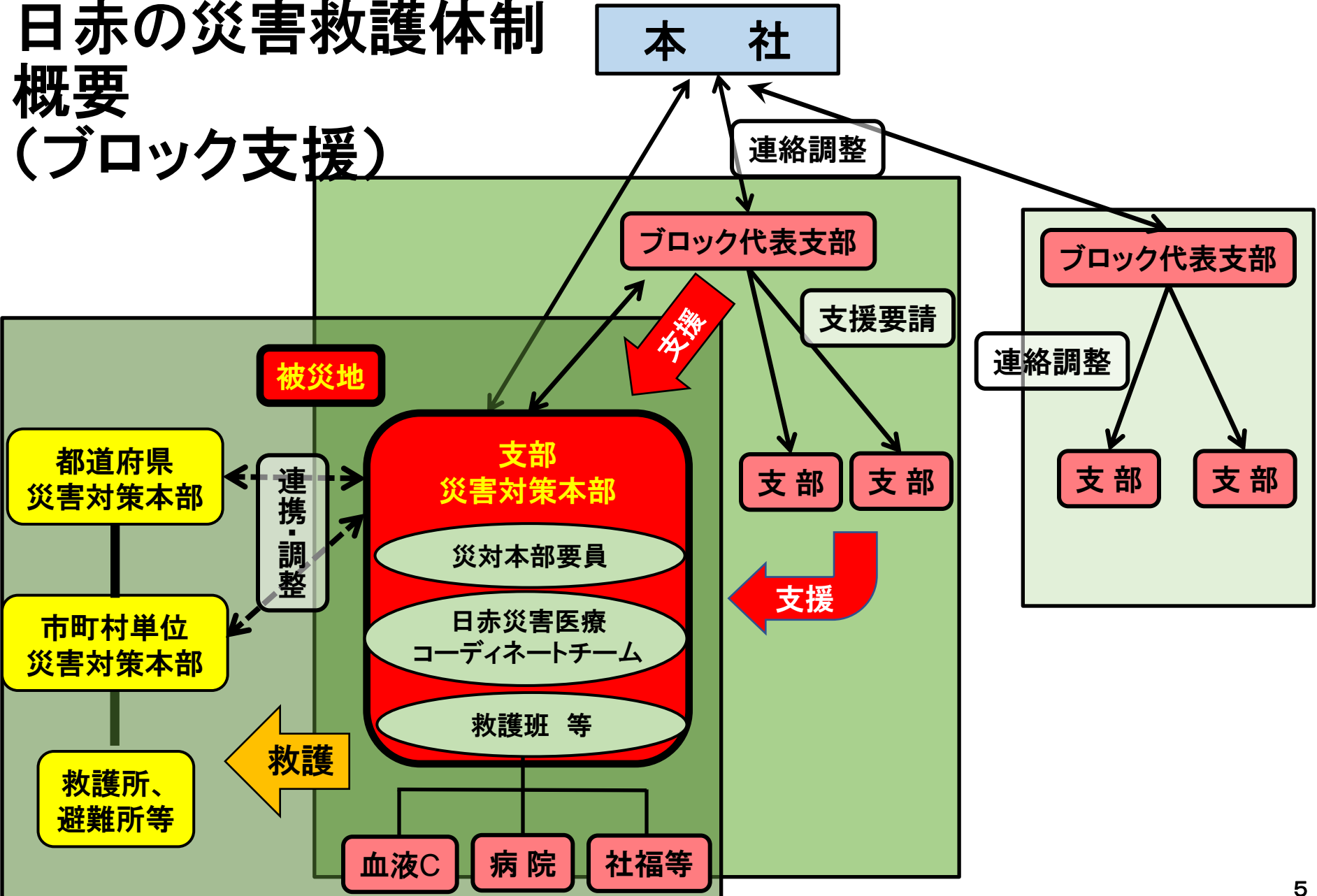
日本赤十字社の災害救護業務の基本ルール

- 救護は災害の発生した都道府県の支部長が実施
被災地支部管内の救護は同支部災対本部長の指揮により実施
- 被災地支部のみでの対応が困難な場合は、被災地支部は**被災地ブロック代表支部に支援を要請**
- ブロックの範囲を超える支援が必要な場合は、被災地ブロック代表支部は**本社に支援を要請し、本社は非被災地ブロック代表支部に支援を指示**
- 大規模な災害が発生した場合など、**状況によっては被災地支部からの要請を待たず、近接する支部ないし本社が被災地支部を支援(いわゆる「プッシュ型支援」)**
- 官民の他団体・機関等と連携協力しながら行う
- 災害発生直後から被災者の自立の見通しが立つまでの間(仮設住宅に入るまでがひとつの目安)、災害の特性や被災者のニーズ等を踏まえて実施

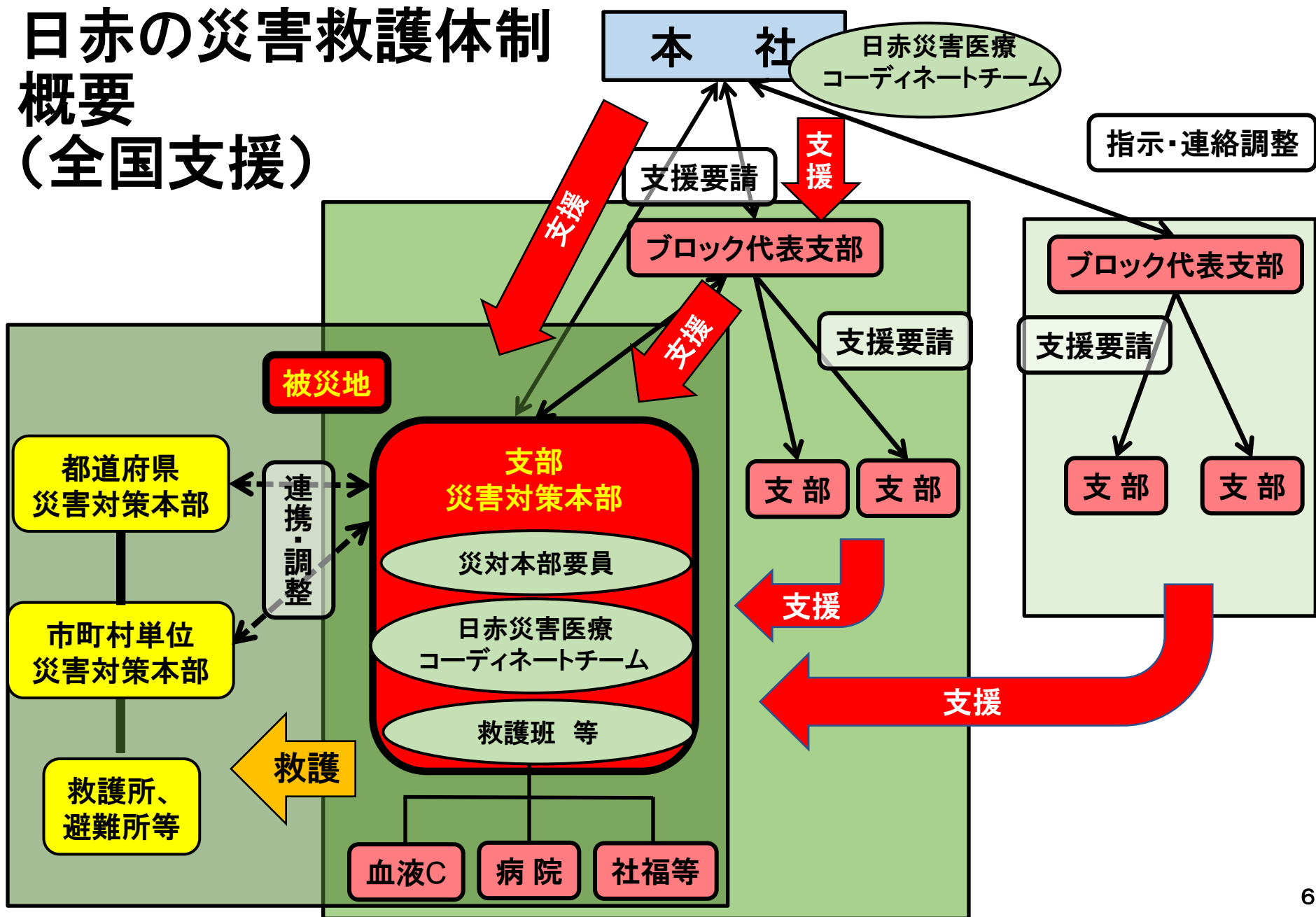
日赤の災害救護体制 概要(局地災害)



日赤の災害救護体制概要 (ブロック支援)




日赤の災害救護体制 概要 (全国支援)



平時の備え

～要員育成、資機材等の備蓄～

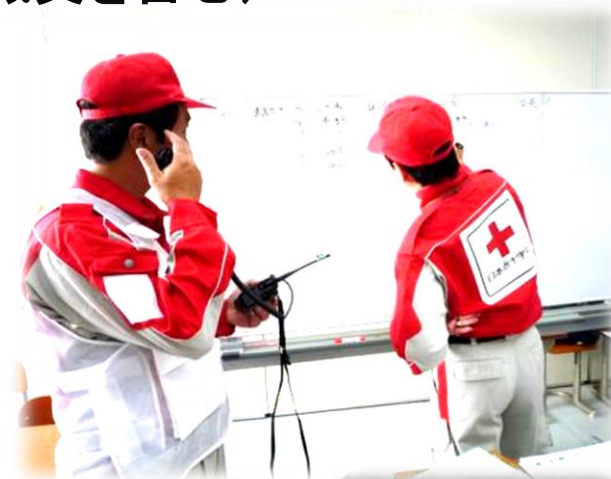


日赤の救護活動リソース

(職員数以外は、平成29年3月末現在)

- 職員 67,659人
- 病院 92病院 (**63災害拠点病院**)
- 常備救護班 505班 7,818人(登録救護員:10,179人)
(標準編成:医師1名、看護師3名、事務2名。必要に応じ助産師等を追加)
- 日本DMAT隊員 68病院 1,087人(本社・支部職員を含む)
- 救護車両 692台(内救急車:127台)
- 医療セット 273セット
- エアテント 178張
- テント 5,278張(ドラッシュ・リフト含)
- 発電機 1,391台
- 衛星電話 489台
- 無線局:3,464局 (150MHz帯1波、400MHz帯1波)

専用波(基地局・移動局・固定局=全国)赤十字用



国内型緊急対応ユニット dERU

(domestic Emergency Response Unit)

資機材 + 要員 = 緊急仮設診療所 1 ユニット



dERUチームの基本構成

職種	人数
医師	2
看護師長	2
看護師	4
助産師	1
薬剤師	1
事務	4
合計	14

全国に
20ユニット配備

- トラック
- コンテナ
- エアテント (9×9m)
- 医療資機材
- IT機器

赤十字救護班等の研修(人財育成)

全国 (本社)

- ・ 日赤災害医療コーディネート研修会
平成26年度から開催(年2回) 受講者 約60人/年
- ・ 赤十字救護班研修会
平成20年度から開催(年4回) 受講者 約260人/年
- ・ こころのケア指導者養成研修会 等
平成15年度から開催(年2回) 受講者 約70人/年
- ・ 都道府県災害医療コーディネート研修の共催
平成26年度から開催(年3回、内1回を日赤本社で実施)

ブロック

- ・ ブロック支部合同救護訓練 等
全国6つの各ブロックで毎年実施

支部 (施設)

- ・ 救護班要員研修
 - ・ こころのケア要員研修
 - ・ 救護訓練
- } 全国合計 約370回※
 同 約160回※

医療救護活動のコーディネート

他団体の医療チーム(例)



DMAT(Disaster Medical Assistance Team)
災害派遣医療チーム



JMAT(Japan Medical Association Team)
**日本医師会
災害派遣医療チーム**



公益社団法人 **全日本病院協会**



DPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team)
災害派遣精神医療チーム

AMAT(All Japan Hospital Medical Assistance Team)
全日本病院医療支援チーム

DHEAT
(Disaster Health Emergency Assistance Team)
災害時健康危機管理支援チーム



JRAT(JAPAN DISASTER Rehabilitation Assistance Team)
大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会



H25年度～

日赤災害医療コーディネートチーム
(本社・各支部に設置)

災害医療コーディネーター：医師1
コーディネートスタッフ：
看護師1、薬剤師等1、事務職等1

任命数
災害医療コーディネーター：93人
コーディネートスタッフ：252人

役割

- ・ 本社又は支部に対して、災害医療救護活動に関する専門的意見具申。
- ・ 都道府県災害医療コーディネーター、自治体、他の医療チームとの連携、調整業務。
- ・ 平時における教育訓練及び研修の企画、指導等への協力。

日赤災害医療コーディネータ研修会(平成26年度～)



本部運営訓練



DMAT・自衛隊・医師会等との意見交換

プログラム概要

- 日赤災害医療医コーディネータの役割と位置付け
- コーディネータ事例
- 行政・防災関係機関との連携
- 総合演習(本部運営訓練) など

これらの研修を踏まえ、他支部からの受援、他支部への支援も実施

大規模災害における主な日本赤十字社の救護活動

	阪神・淡路大震災	新潟県中越地震	東日本大震災	平成28年熊本地震
救護班 派遣数	981班 約6,000人	296班 約1,200人	894班 約6,500人	207班 約1,600人
診療 傷病者数	約38,500人	約12,000人	約76,000人	約5,000人
物資の 配分	日用品セット 39,894セット お見舞品セット 10,686セット 毛布 66,995枚	日用品セット 1,191セット お見舞品セット 455セット 安眠セット 2,080セット 毛布 8,019枚	緊急セット 38,437セット 安眠セット 15,406セット 毛布 148,493枚	緊急セット 654セット 安眠セット 7,551セット 毛布 22,480枚 ブルーシート 11,230枚
義援金の 受付	約1,028億円	約165億円	約3,397億円	約288億円
				

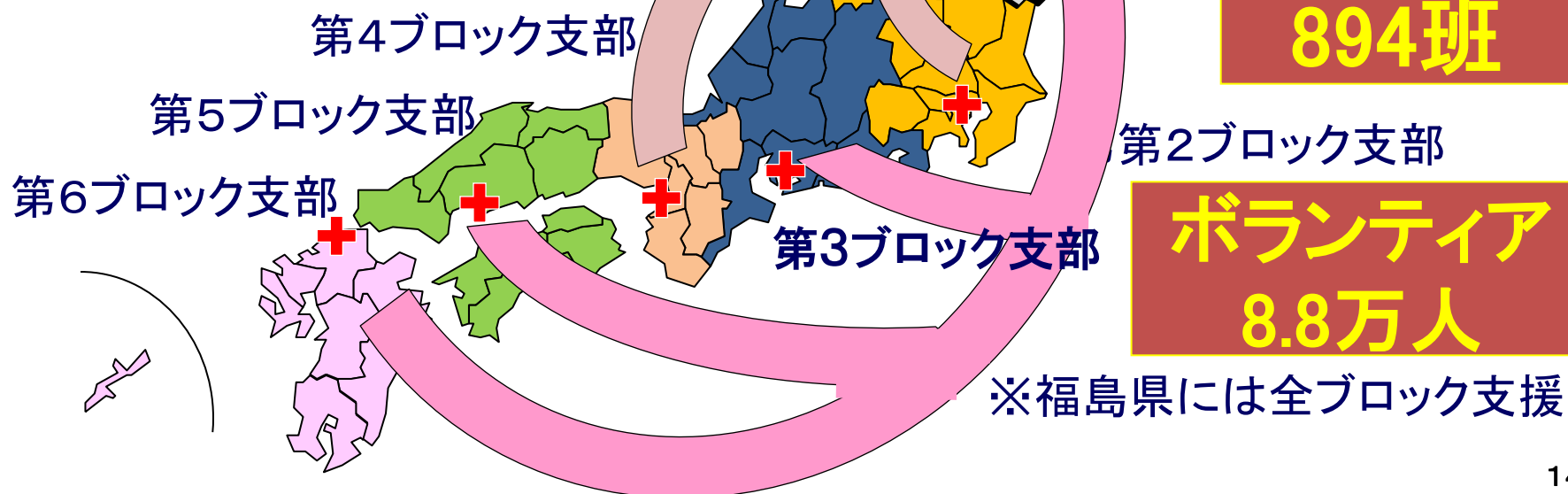
※「義援金の受付」は、日本赤十字社受付分であること(県、市町村、他団体等の受付分除く)。また、東日本大震災及び平成28年熊本地震については、現在も受付中であり、平成29年11月末現在の受付額であること。

東日本大震災における 災害救護活動

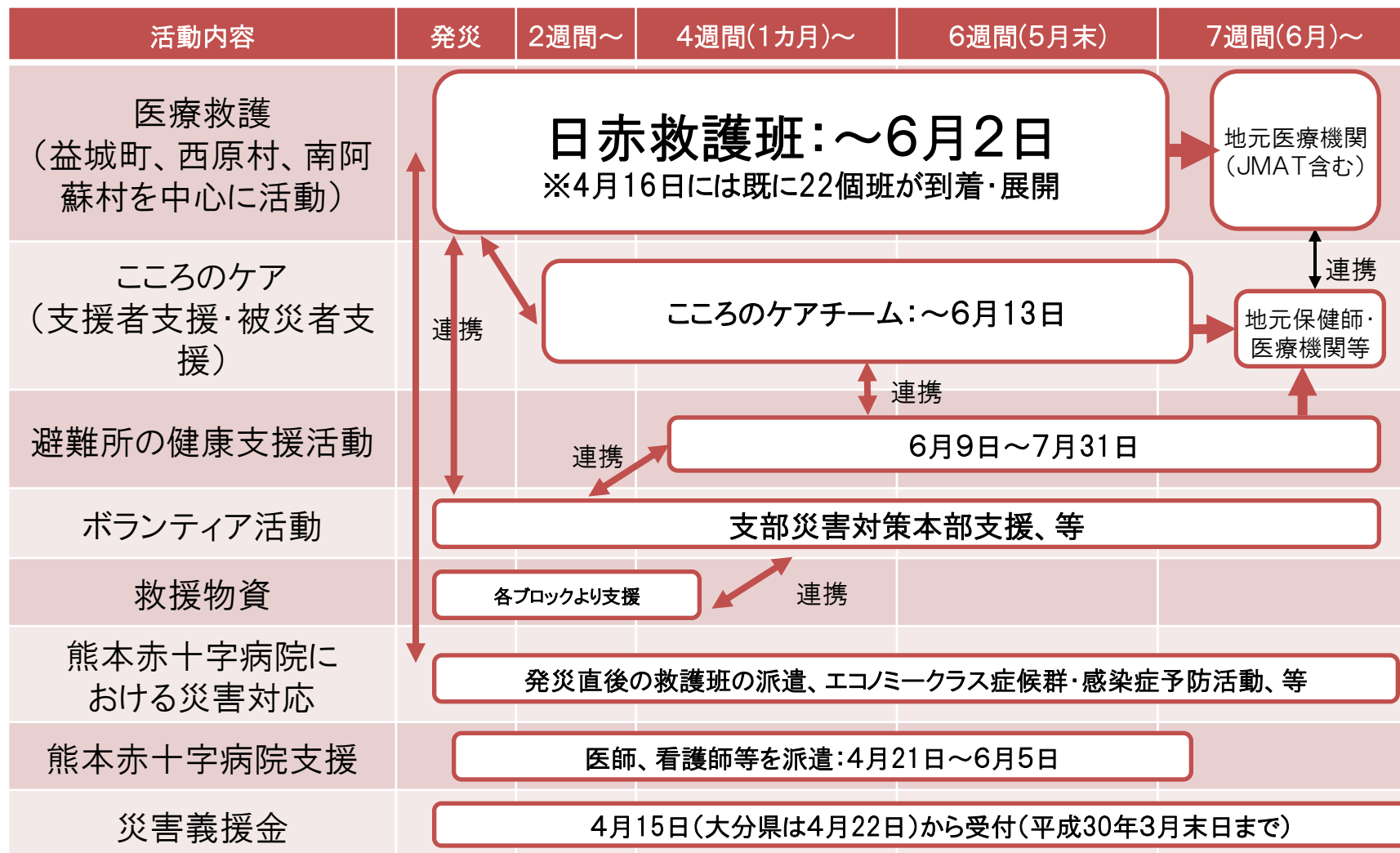
総派遣救人員：6,500名

[今回の対応]

- 全国を6つのブロックにエリア分け
- ブロック単位で被災地支援を担当
- ✦印は、ブロック代表支部の所在地



【事例】平成28年熊本地震災害対応にかかる 日本赤十字社の主な活動の全体像





207班 約1,600人

派遣救護班数と人数



654セット

緊急セット配布数



約5,000人

診療傷病者数



22,480枚

毛布配布数



約300人

医師・看護師ら支援要員派遣数



11,230枚

ブルーシート配布数



149人

こころのケアチーム派遣人数



7,551セット

安眠セット配布数

平成28年熊本地震災害への救護活動

救護班派遣数(6月2日終了)

dERU: 3班
救護班: 207班

救護班(6人)基本編成

医師(班長)	1人
看護師長	1人
看護師	2人
主事	2人

第4ブロック支部

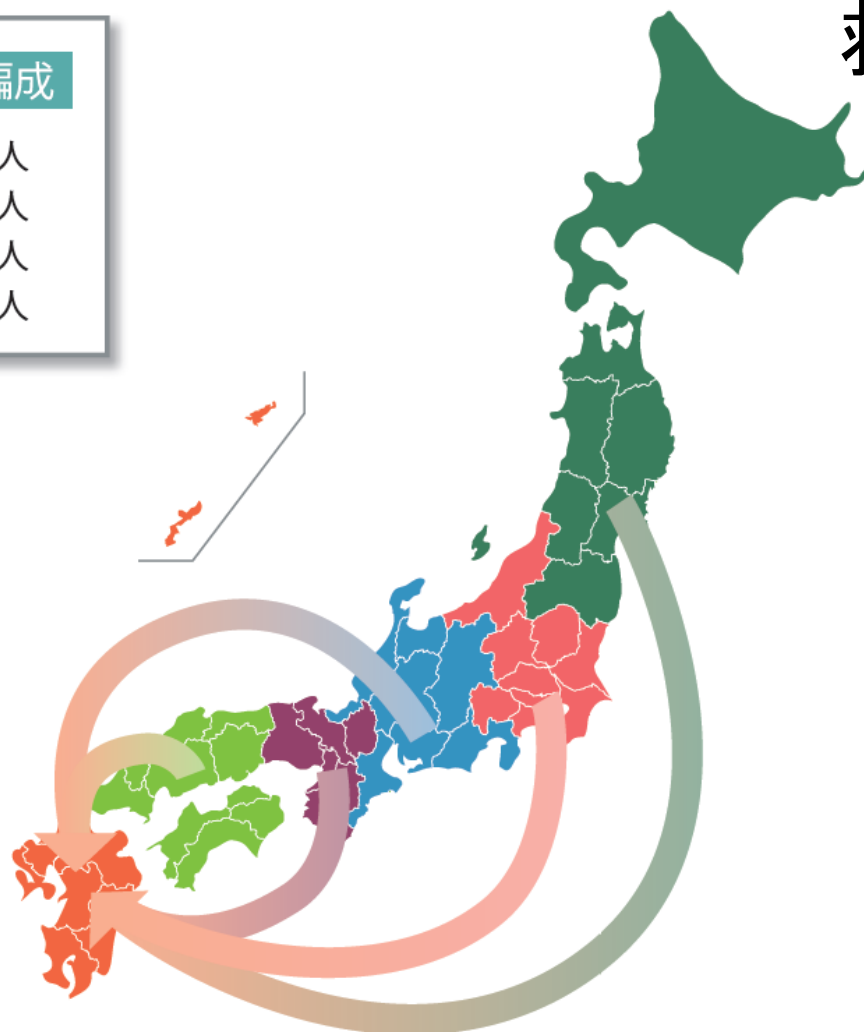
dERU	2班
救護班	39班

第5ブロック支部

救護班	44班
-----	-----

第6ブロック支部

救護班	70班
-----	-----



第1ブロック支部

救護班	15班
-----	-----

第2ブロック支部 (本社含む)

dERU	1班
救護班	23班

第3ブロック支部

救護班	16班
-----	-----